

圏外のアンテナ

[屋上遊園地]の巻

時間調整に、ふらり銀座の書店に寄ると、併設のカフェで写真展をやっている。

タイトルは「おくじょう」。昨年惜しまれつつ閉店した松坂屋銀座店へのオマージュ展だろうか？

順にパネルを見ていくと、被写体は、さび付き、色あせながらも、全国のデパートの屋根で頑張っている、屋上遊具たちである。

だが、最後の2枚には「東急プラザ蒲田、2014年3月2日閉鎖」「松坂屋上野店、3月1日閉鎖」というただし書きがある。

都会のエアポケットのように脈々と続いてきた屋上遊園地が都内に4つあって、その内の2つが、来月、幕引きしてしまうらしい。

ふと、昭和の子供だった記憶が、思い出の走馬灯をくるくると回し始めた。

麦チョコ、カッターナイフ、背中のボタンを押すとお喋りする人形…。

子供の頃、隣町の郡山にあったうすい百貨店の売り場で、そんな都会的文物に目を見張った後には必ず、屋上という楽しみが待っていた。わたしのお気に入り、コイン式ダンボの乗り物だった。

母と2人、頂点で停止して動かなくなった観覧車のゴンドラに、小1時間閉じ込められてしまい、助けを求めて大泣きしたこともある。

消えゆく屋上遊園地とは対照的に、都内では、先年成立した屋上緑化条例を受けて、屋上に緑を植え庭園を作るビルが増えている。

屋上は、子供と、昔子供だった大人の休憩所から、エコな大人の情報発信基地へ、変身を遂げようとしているのかもしれない。

でもあと半月、夢の続きはまだそこにある。これから蒲田まで、行って来ようかな？ムリかな？わたしは、腕まくりして、時計をにらんだ。

=2014年2月18日掲載=



雪の残る、東急プラザ蒲田の屋上遊園地